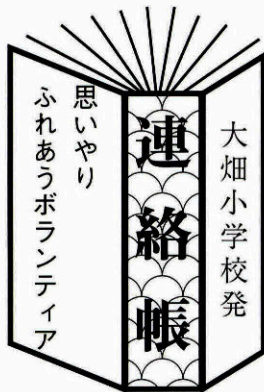


杉山 曜聡 さん

6年 (山小根区)

より3年間、社会福祉協議会のボランティア協力校となり、ふれあいを通して思いやりの心を学習しています。昨年も洪水駅の清掃、恵光苑の訪問、そして地域の65歳以上の方々との手紙による心の交流が続いています。

11月30日は、ふれあい参観日でした。保護者や地域のお年寄りといっしょに、縦割り班ごとにふれあい給食をしたり、伝言ゲームをしながら社協の方に手話を教えてもらったりしました。



昭和40年に車の免許をとってから、現在の花屋を始めた。20代の頃、最初は番傘を作って萩や油谷へ行商に行っていた。その後も、洋傘を売るなどずっと商売を続けてきた。「今まであった花屋さんがやめたので、それを引き継ぐ形で始めました。若い頃、生け花を習っていた事もありまして」と。昔から商売は好きだったという。

高等小学校の時から剣道を始め、3段の腕前。「体は小さかったけれど、出小手が得意だったので、出小手の原田と言われてました」と笑う。その他にも、仲間とコートを作ってテニスをしたり、玉突もやっていたそうで、玉突をしていたことを先生に知られ、叱られたこともあったという。「昔は、テレビもなかったので、色々なこと



動作を身ぶり手ぶりで伝えていたのですが、班の最後のころには、きりんがたぬきになっていたりしてみんなで大笑をしました。最後に講演もありました。

楽しく学習して、ボランティアが身近なものになりました。これからも障害をもった方や地域の方と、心の交流を続けていきたいと思えます。

ふるさとながと ②

こんにちは



角田 洋子 さん
(神奈川県相模原市)

季節感あふれる環境に感謝

略歴

昭和25年上政区で生まれる。49年宮城教育大学卒業後、神奈川県で教職、現在相模原市立大沢小学校に勤務。夫・中3の男の子(双子)の4人家族。

郷里を離れて今、懐かしく思い出されるのは、やはり、美しい自然の中でのびのびと育った日々。

春にはれんげ畑でよく首飾りを作りました。田んぼからは蛙の合唱がにぎやかで、負けずに歌ったりしたものです。

夏にはやさしく光を放つ蛍もたくさんいました。木屋川の流れるがはつきりわかるほどの蛍の群れを見た時は大きな感動でした。今でも、目を閉じるとあの美しい情景が浮かんできます。

秋には稲穂が重く垂れ、一面黄金色。刈り入れ時の手伝いも楽しいものでした。

冬はやはり厳しい寒さ。手足の冷たさも忘れて雪遊びに夢中になった頃がなつかしいです。

今でも、マラソンを趣味に日々、自分に挑戦している私で

すが、40を過ぎてもますます健康でいられることも、季節感あふれるよりよい環境で育った子ども時代があったからと感謝するばかりです。

青く美しい海、四季折々の食べ物等は自慢したいふるさとです。今、一番の関心事は、『詩人金子みすゞ』。公園や記念館もあるとか。帰省の折には、早々に訪ねてみようと思っています。



小学校1年の時、夏休みに子ども会で油谷町の海水浴場へ(二番煎)